

新潟県立植物園  
植物園だより

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 1月4日(火)～2月6日(日)  
「百花繚乱 アザレア展」
- 2月9日(水)～3月6日(日)  
「洋ラン展」
- 3月9日(水)～  
「チューリップ展」★

観賞温室第3室 住宅内展示

- 1月4日(火)～1月23日(日)  
「ひょうたん展」  
出展:西島シーニアクラブ大和会
- 1月25日(火)～2月13日(日)  
「植物園友の会写真展」  
出展:新潟県立植物園友の会
- 2月15日(火)～3月6日(日)  
「染物作品『庭で摘まれた模様展』」  
出展:中山典子
- 3月9日(水)～3月27日(日)  
「野の花の水彩画展」  
出展:外山康雄
- 3月29日(火)～  
「新潟市の花『チューリップ』写真展」  
出展:秋葉区産業振興課

観賞温室第3室 特別展示

- 1月4日(火)～1月23日(日)  
「伝統園芸植物展」  
協力:片岡笑幸園
- 1月25日(火)～2月20日(日)  
「県立都市公園・まちなか緑花写真コンテスト入賞作品展」  
主催:(財)新潟県都市緑花センター
- 3月9日(火)～3月13日(日)  
「花の新品種inにいがた」★  
主催:食と花の世界フォーラム組織委員会、新潟県立植物園  
★「春一番、にいがた花三昧。」イベント(詳しくは4ページをご覧ください)

花と緑の相談コーナー

専門相談員がわかりやすくお答えします。来園のほか  
FAX、電子メールでもお気軽にお問い合わせ下さい。

専用ダイヤル0250-24-6437  
受付日:水曜・日曜 10:30～15:00

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター  
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 1月23日(木) 10:00～11:30 「アザレアツアー」  
講師:倉重祐二(県立植物園副園長・趣味の園芸講師)  
定員:10名 参加費:無料(ただし温室入館料が必要)
- 2月6日(日) 10:00～12:00 「見てみよう!冬の植物」  
講師:橋本永(県立植物園)  
定員:小学生親子10組 参加費:無料
- 2月13日(日) 10:00～11:30 「ボトルフラワーをつくろう」  
講師:榎舎道子(Plink&Plonk)  
定員:20名 参加費:1,000円
- 2月20日(日) 10:00～11:30 「洋ランを育てよう」  
講師:細川傳一郎  
定員:30名 参加費:無料
- 3月20日(日) 10:00～11:30 「ツバキについて」  
講師:石沢進(元新潟大学理学部教授、積雪地域植物研究所)  
定員:30名 参加費:無料

熱帯植物ガイドツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすく説明し  
ます。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加され  
た方には記念写真のプレゼントもあります。

- ① 10:40～
- ② 14:40～(土・日・祝日は13:40からも実施)  
当日温室発券カウンターにて受付・定員制

また、ご自分のペースで解説付きの見学をお楽しみにな  
りたい方には、携帯音楽プレーヤー・iPodを使った展示解  
説「seedPod(シードポッド)」もご用意しています。温室の  
入館券売場で貸し出しています。(無料・身分証明書必要)

「みんなの趣味の園芸」の  
植物園日記(ブログ)を更新中



「みんなの趣味の園芸」  
<http://www.shuminoengei.jp/>で検索  
「みんなの園芸日記」から  
「新潟県立植物園」の植物園日記を  
選択。

●観賞温室利用案内

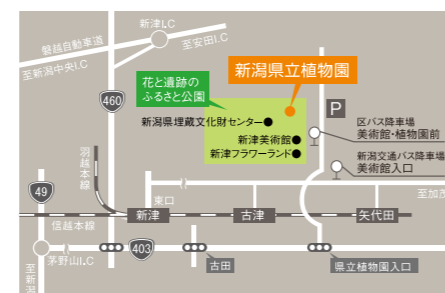
開館 / 9:30～16:30(入館締切16:00)  
入館料 / 大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円  
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ ・ ・ ①	・ ・ 1 2 3 4 5	・ ・ 1 2 3 4 5
② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫	⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫
9 10 ⑪ 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	13 14 15 16 17 18 19
16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	20 21 22 23 24 25 26
23 24 25 26 27 28 29	27 28 ・ ・ ・ ・ ・	27 28 29 30 31 ・ ・

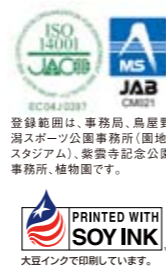
●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 / 磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分  
一般道路 / (新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分  
J R / 信越線古津駅から徒歩約20分  
バス / 区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き  
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分  
新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き  
「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟県秋葉区金津186番地  
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410  
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp  
ホームページ <http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>  
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター



富樫信平画

シュンラン  
*Cymbidium goeringii*  
(ラン科)

常緑性のラン。洋ランで馴染み深いシンプジウムと同属で、観賞用に栽培される。日本各地に分布し、秋葉丘陵でも見ることができる。昭和初期には、新潟を発祥とする斑入シュンランのブームがあり、一鉢5,000円(現在の価格で約450万円)の値がついたというエピソードもある。

ランの仲間は観賞価値が高いため、園芸採取が原因で絶滅危惧種にされているものも多い。秋葉丘陵内でも、毎年開花を楽しみにしていた株が、開花を見に行くと掘り取られていたという話を聞く。「とる」という行為は写真だけにして欲しいと思う。

(橋本 永)



# アザレア展 平成23年 1|4(火)–2|6(日)

曇天の新潟の冬を鮮やかな花色のアザレアで飾り、新年を豪華に迎えるアザレア展。

江戸時代のツツジがヨーロッパでアザレアとなるまでの歴史や、全国生産量の95%を誇る日本一の新潟のアザレア栽培の歴史、新潟で作出された品種や現在生産されている品種などを紹介し、美しい花だけではなくアザレアの様々な情報も得ることができます。

近年作出された品種から、時代の変遷とともに生産されなくなった希少な品種まで、当園の保有する数々のアザレアでアザレア王国新潟を満喫していただけます。



新潟で作出された品種：左からロマンスパール、ダンシングスノー、五合庵

# 春一番、にいがたの花三昧

# チューリップ展 平成23年 3|9(水)から

新潟県の花はチューリップ、そしてチューリップの切花出荷量が全国1位、球根出荷量が2位であることは有名な話です。

新潟県では新しいチューリップを作り出すため十数年もの研究を重ね、近年新品種を世に送り出すことに成功しました。これ以前にも、故萩屋薫新潟大学名誉教授によって170品種ものチューリップが作り出されています。また、新潟ではじまったチューリップの商業生産など、新潟とチューリップの深く長い歴史をご紹介します。

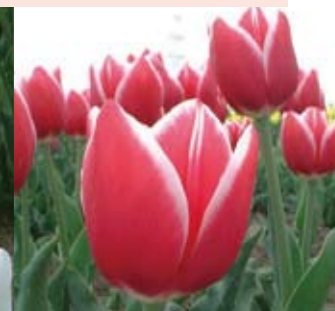
今回の展示では、販売されたばかりの新潟県作出品種や、今ではほとんど見るのでなくなった萩屋先生作出の貴重なチューリップも展示されますので、お見逃しなく。



萩屋氏作出品種'モモ'



新潟県作出品種'桜白雪'



新潟県作出品種'メリープリン'

# 洋ラン展 ~ランの不可思議な世界~

平成23年 2|9(水)–3|6(日)

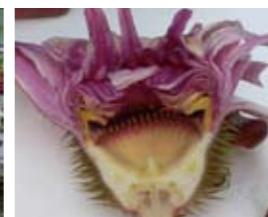
昨年より熱帯植物ドームと観賞温室第2室を会場に、規模を拡大して開催している洋ラン展。昨年好評をいただいた植物園ならではの熱帯植物を背景としたランの展示、また第2室での県内6つのラン愛好会による出品展示を行うとともに、今年は「ランの不思議な世界」を探ります。他の植物とはまったく違ったランの生態や花の構造、昆虫との特殊で奇妙な関わりなど、ランの持つ美しさ以外の部分にもスポットを当て、植物の不思議をお伝えします。



## 園内ウォッチング



秋に行ったパラグアイオオニバスの乗葉体験の様子。半年で直径1mを越す葉をつける。



花の断面。花びらの内側の何層かが雄しべ。雄しべの下部の横向きに突き出した赤色突起が雄しべ(柱頭)。



受粉の様子。開花2日目の少し赤くなった花に、夕方、雄しべを切除し、受粉した。このとき大量に花粉が出たが、1日目の夜の花は花粉が出なかった。



水温27℃で管理。はじめから丸い葉が出るのではなく、矢じり状の沈水葉が出る。発芽が待ち遠しい。

## 温室●まだまだがんばれオオオニバス!

当園の熱帯ドーム温室の池ではオオオニバスの雑種(Victoria cv.)とパラグアイオオニバス(V. cruziana)が栽培され、12月に入っても開花し続けています。今年の2月に発芽したオオオニバス。夏には140cmを越す大きな葉をつけましたが、少し衰えて、葉も花も小さくなってきました。まだ花を見ていない方はお見逃しなく。オオオニバスは1年から2年で枯れてしまいますので、終わりを迎えるのは時間の問題かもしれません。

来年年用の株を確保するため、パラグアイオオニ

バスは9月22日、オオオニバスは9月29日に受粉を行い、受粉から約1ヶ月後、それぞれ10月26日、11月10日に採種しました。その種子の一部は、第1温室の池の前、水槽の中で展示しています。この種子が順調に発芽、生育し、来年の夏にはまた、乗葉\*体験が実施できればいいなと思っています。

まだまだ頑張ってる花を咲かせている親株、これから芽を出す種子、池の前では親子の競演が見られます。

(橋本 永)

\*乗葉は「じょうば」と読んでください(造語です)。

## 園地ウォッチング

### 園地●植物の冬じたく

冬を乗り切ろうと、葉や花の芽を包む冬芽(ふゆめ)はきっちりと襟元を閉めています。冬の樹木観察では、そんな冬芽の姿や、葉が落ちた後に残る葉痕(ようこん)を楽しむことができます。

冬芽や葉痕は、樹種ごとに特徴があり、顔のように見えるものもあります。代表選手は、ウサギのように見えるオニグルミ。長い耳の部分が冬芽、顔の部分が葉痕で、目鼻に見える3つの点は維管束痕(いかんそくこん)といい、水や栄養の通り道のあとです。

花木の芽も堅く、この中に花のもとが入っているとは思えないほど。開いた花を思い浮かべながら、観察してみてくださいはいかがでしょう。

(林 寛子)

### 花の写真とくらべてみよう



オオカメノキ  
万歳をしているよう。まん中の丸い部分が花芽で両脇が葉芽。



ソメイヨシノ  
花芽はふっくらしている。葉痕はすこし盛り上がる。



ボタン  
葉は自然に落ちる前に刈り取るため、葉柄がすこし残っている。



レンゲツツジ  
うろこ状の鱗片につつまれ、タケノコのようにも見える。

ウサギ?のようなオニグルミ

## NEWS 1

### ジョン・レノン ダブルファンタジープロジェクト

「ダブルファンタジー」は元ビートルズのメンバーであったジョン・レノンの最後のアルバムのタイトルです。レコーディング前に休暇をすごしたバミューダの植物園でみたフリージアの八重(英語でダブル)の黄色の品種「ファンタジー」に由来します。

そのダブルファンタジーをさがすプロジェクトが、趣味の園芸のキャスターをつとめた柳生真吾さんを中心に組織され、全国各地のボランティア「ファンタジスタ」がダブルファンタジープロジェクトを展開しています(詳細は<http://d-fantasy.com/>をご覧ください)。

1stステージでは品種さがし、2ndステージはバミューダ植物園に黄色の八重品種「フローリアン」を贈る、そして現在の3rdステージが夢を実現させるために全国でフローリアンを育てるという活動を行なっています(<http://www.kanshin.com/community/58024>)。

先般、新潟のファンタジスタからご提案があり、当園でもプロジェクトに参加することにしました。

11月18日、当園の栽培管理ボランティア8名で、分譲されたフリージアの品種フローリアン200球、その他購入した800球、合計1,000球を植えつけました。12月7日にはフローリアンの芽が出てきましたので、年明けから温室で加温して3月中旬に咲かせる予定です。

「春一番、にいがた花三昧。」の開催される3月12日(土)にイベントを企画中です。皆様ダブルファンタジープロジェクトにご注目ください!

(倉重祐二)



根が出はじめた「フローリアン」 植えつけが終わったフリージア



「秋葉錦」



加茂農林高校指導教諭の井ノ口先生と展示したキクを育てた生徒



## NEWS 3

### 半世紀ぶりに復活!キク「秋葉錦」

秋には全国各地で菊花会が盛んに開催されますが、新潟を代表するのは弥彦神社で行われる弥彦菊まつりの奉納菊花展でしょう。しかし、弥彦神社に先駆けて当園の所在する新津(新潟市秋葉区)では、昭和30年代には現在の弥彦神社と同じ6,000鉢規模の菊花展が行われており、大正から昭和にかけてキクの栽培が盛んでした。

その中心人物が、日本を代表するキク育種家である小林徹雄(明治27年～昭和39年)です。氏は、大正12年ごろから品種改良に没頭し、昭和12年に「弥栄」が千秋会の日比谷公園菊花大会で優等賞、翌14年「新津松阪」が一等賞首席、15年には「阿賀野川」が最優秀賞を得、推奨品種となったため、育種家としても全国的に名を馳せました。

小林氏が生涯に発表したキクは135品種以上に及びますが、没後50年を経た現在は「子安殿」、「秋葉錦」、「秋葉山」の3品種が残っているに過ぎません。時代の流れの中で古い品種が失われてしまうのは、貴重な生きた文化財が失われることに他なりません。このため当園でもこれらのキクの保存を進める予定です。

今回の展示はお孫さんの小林千枝子さんが加茂農林高校に「秋葉錦」のウイルス除去を依頼して相成ったものです。当園では日本のどこかに残っているであろう小林氏の品種探索に協力し、引き続き菊花展も開催したいと考えています。(倉重祐二)

## NEWS 2

### 春一番、にいがた花三昧。

平成23年3月11日(金)～3月13日(日)

この春初めて開催する「春一番、にいがた花三昧。」とは、新潟市で行われる4つの春の花イベントを同時期に開催し、県内外の多くの方から新潟の花を存分に見て楽しんでいただくための大企画です。体験講座やスタンプラリーなどの開催、土・日は各会場を周遊するシャトルバスも運行します。クイズ&スタンプラリーの正解数に応じて抽選でステキなプレゼントも! 全てのイベントに是非足を運び、花三昧な新潟をお楽しみください。(永井明子)

詳しくは [春一番、にいがた花三昧。](#) [検索](#)



**春一番、にいがた花三昧。**

<p><b>チューリップ展</b> 平成23年3月9日(水)～4月10日(日) 会場:新潟県立植物園 問合せ:0250-24-6465</p>	<p><b>第2回 花の新品種inにいがた</b> 平成23年3月9日(水)～13日(日) 会場:新潟県立植物園 問合せ:025-226-1802</p>
<p><b>フラワーウェーブ新潟2011</b> 平成23年3月11日(金)～13日(日) 会場:新潟ふるさと村 問合せ:025-280-5743</p>	<p><b>第34回 日本ボケ展</b> 平成23年3月4日(金)～13日(日) 会場:うららこすど 問合せ:0250-25-5340</p>

## NEWS 4

### エントランスリニューアル

植物園では、秋に大規模な植栽工事を行いました。

なかでもエントランスには、5本のケヤキを植栽しました。4本は、既存の大きなケヤキとのバランスを考えながら広場に配置し、木を取り囲むようにベンチを置いています。今までの広いエントランスも開放感があってよかったのですが、大きく育って木陰をつくってくれる日が楽しみです。もう1本は、観賞温室入口のわきに植えました。こちらも大きくなったら、ガラスの温室に緑を添えていい雰囲気になるのではないかと思います。

エントランスだけでなく、芝生広場には5種21本の樹木を植栽し、利用しやすい木陰にテーブルとベンチを設置しました。また、観賞温室第2室の窓から見える花壇には、ドイツウヒを列植したほか、園内の見晴らしの良い場所2箇所に藤棚を設置しています。

植栽に当たっては、土壌改良を行ったうえで、環境の変化に比較的対応できる若い木を選んでいきます。しっかり育て、良い空間をつくってくれるよう見守っていききたいと思います。

(林 寛子)



エントランス広場に植えられるケヤキ



芝生広場の木陰に設置したベンチ

●問合せ先/TEL:025-280-5743(新潟県花と緑の普及推進協議会事務局)・025-226-1802(食と花の世界フォーラム組織委員会事務局)

## 友の会通信

秋の植物観察会で  
阿賀町へ行ってきました。

9月26日、阿賀町の麒麟山、たきがしら湿原へ行ってきました。行ききのバスの中では石沢会長より、「阿賀野川流域の植物は、日本海側にあっても太平洋側要素の植物が入り込んでいる特殊な地域である。」などの解説をいただいたあとに、麒麟山を散策。御神楽温泉で昼食をとったあと、たきがしら湿原へ。少し花のピークは過ぎていた感じでしたが、水辺の植物、林縁の植物などを数多く観察することができました。



麒麟山からの眺め



アギナシ



カラハナソウ



モウセンゴケ



ダイヤモンド

### 参加者の感想

- 植物は古来からその土地の環境に適合し引き継いで今現在に至っている。人間が他の土地から移植してまで植えつけるものではないということ。「たきがしら」の説明を聞き改めて実感いたしました。緑があり、水があり、音色があり、その自然を、原風景を大切にしなければ・・・と感じました。
- 麒麟山とたきがしら湿原。違った場所で良かったです。カラハナソウが見られて良かった。昔てんぷらで食べたことを思い出しました。
- カラハナソウ(ホップ)：以前、栽培したいと思い種子や苗を探したのに、見つからなかった。まさかこんな所で目にするとは思わなかった。
- タマバシロヨメナ：長い間この花の正しい名前がわかりませんでした。図鑑にもなくて困っていました。でもどこの山でも見かける花でした。今回教えていただきうれしかったです。



記念撮影「雪椿発見の地」の記念碑の前で



たきがしら湿原



昨年展示の様子

1月25日(火)から、「植物園友の会写真展」を植物園第3温室で開催します。夏と秋の植物観察会で撮影した植物の写真の展示を予定しています。観察会に参加できなかった人も楽しめる展示にしたいと思っていますので、是非足をお運びください。

### 新潟県立植物園 友の会会員募集

友の会会員を随時募集しています。興味のある方は  
友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)  
までお問い合わせ下さい。

### 友の会ブログもご覧下さい

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。  
会の最新情報、会員のつづやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。  
情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで、携帯電話からも投稿できます。

ブログURL [http://blogs.yahoo.co.jp/bgn\\_tomonokai](http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai)

賛助会員(わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています)

- 株式会社アート ● 株式会社アート環境設計 ● 齋藤不動産

## 新潟の植物

### マルバマンサク

*Hamamelis japonica* var. *obtusata*  
(マンサク科)



ベニバナマンサクの花

マンサクは本州、四国、九州に分布する落葉高木です。その名は、まだ雪が残る早春の山地に春一番に花をつけ「まず咲く」に因むと言われます。また、豊年満作の「満作」に由来するとも言われるように、多数の黄色い花が咲き乱れます。

北海道、本州の東北地方から鳥取県の日本海側にはマンサクの変種のマルバマンサクが分布します。マンサクと比べて葉の上半部が丸みを帯びる特徴をもちます。植物園の周辺にも自生していますが、葉の形は変異が大きいようです。

園内にはマルバマンサクの品種で、赤い花をつけるベニバナマンサクも植えられています。雪の積もった園内でひっそり春の訪れを告げているその姿を探してみてください。(永井明子)



マルバマンサクの花

## 新潟の天然記念物

### 薬照寺の大カツラ

南魚沼市薬照寺の大カツラは、境内への石段を上っていく右手の斜面に大きなスギと並んで立っています。もともとこの場所にあったカツラは、1780年に火事で全焼した本堂を建て直す際に伐採され、材として用いられたそうです。今は、そのあとに生えてきたひこばえ\*がそれぞれ大きく育ち、株立ちになっています。

樹高30m、幹周13m以上と樹勢はさかんで、これほどの木の黄葉はさぞ見事だろうと思わせる枝ぶりです。カツラの葉は黄葉のころ独特の甘い香りを放ちますが、薬照寺でも、かつては葉を香にして用いていたということです。

12月中旬に訪れた折には、葉はすっかり落ちて向こうの山々も雪化粧でした。数百回も冬を経験してきた大カツラは、この冬も雪に覆われる地域を見守ってくれていることでしょう。(林 寛子)

\*木を切ったあとや、根元から出てくる生育旺盛な若い枝のこと。

